

ごみ量の将来推計について

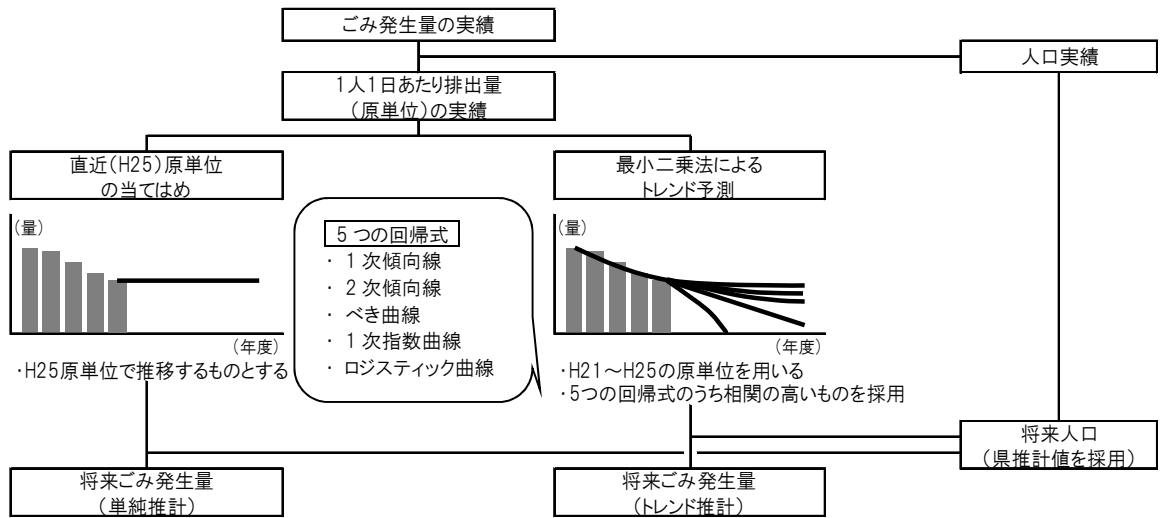
1. 将来推計の手法

《単純推計》と《トレンド推計》を算出し、その範囲に将来ごみ量が当てはまるものと仮定する

《単純推計》…人口減少のみを考慮したもの（1人あたりの排出原単位は固定とする）

《トレンド推計》…1人あたりの排出原単位の変化（主に減少）を推計(*)し、人口減少も考慮したもの

*厚生省水道環境部（当時）監修の「ごみ処理施設構造指針解説」（一般社団法人全国都市清掃会議）に示されている、過去のトレンドから最小二乗法で推計する手法を用いる

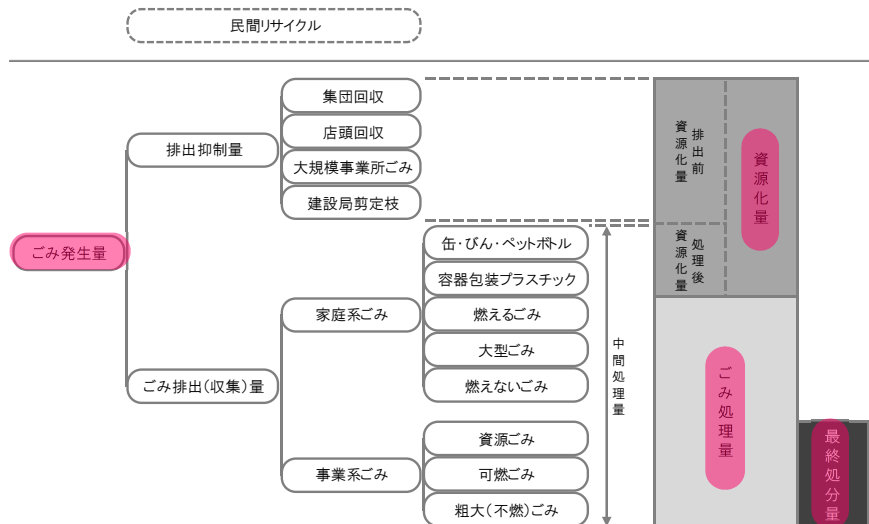


【注記】 事業系ごみについては「1日あたり排出量」を原単位とする

【用語の定義】

本市でその数量を把握しているごみ全体を「ごみ発生量」といい、これには家庭及び事業所から排出されて本市のごみ処理施設で処理を行う「ごみ排出量」と、本市のごみ処理施設で処理を行っていない「排出抑制量」とがあります。「排出抑制量」とは具体的に、地域の「集団回収」や、小売店等で実施している「店頭回収」、本市へ報告義務のある大規模事業所が独自に資源化をしている「大規模事業所ごみ」、公園の樹木等の剪定によって出る「建設局剪定枝」の4つを指します。その他「民間リサイクル」量が存在しますが、本計画の範囲には含めません。

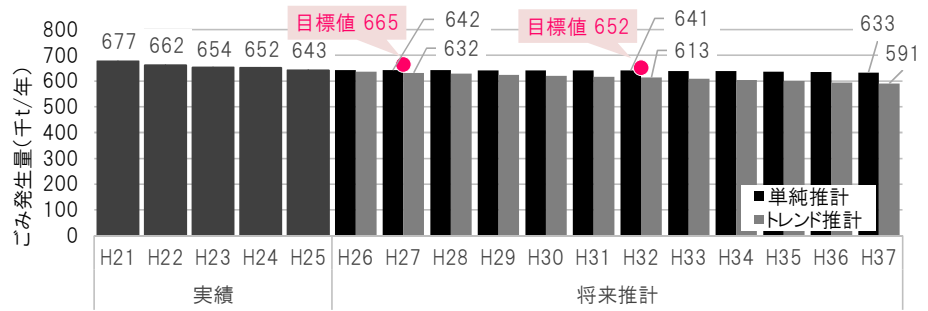
本計画では、赤色で示す項目について減量（または資源化）目標を定めています。



2. 将来推計結果

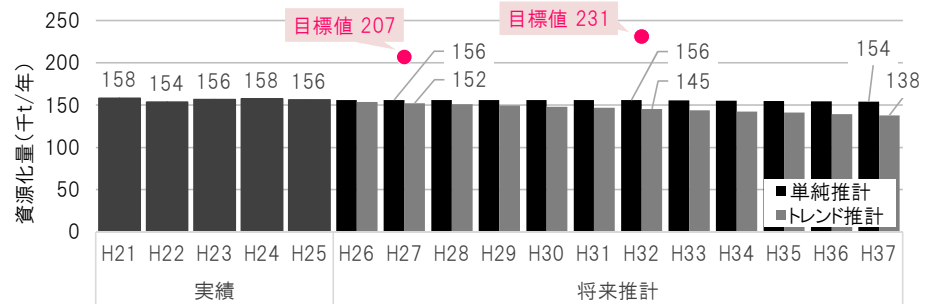
① ごみ発生量

H37には591～633千t/年(対H25で92.0%～98.6%)になると推計され、H27・H32の目標値はいずれも達成できると見込まれる。



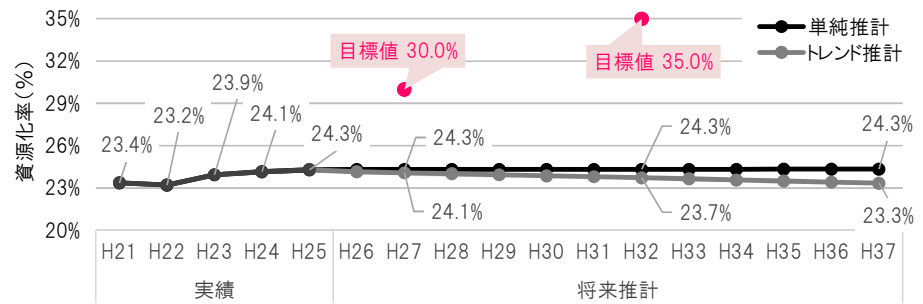
② 資源化量

H37には138～154千t/年(対H25で88.5%～98.7%)になると推計され、H27・H32の目標値を大きく下回ると見込まれる。



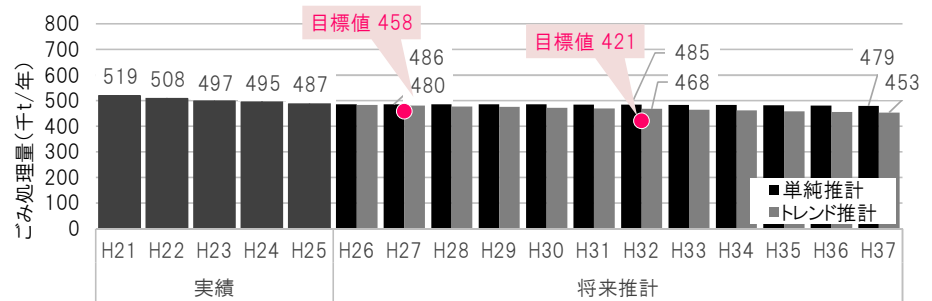
③ 資源化率

H37には23.3%～24.3%になると推計され、H27・H32の目標値を大きく下回ると見込まれる。



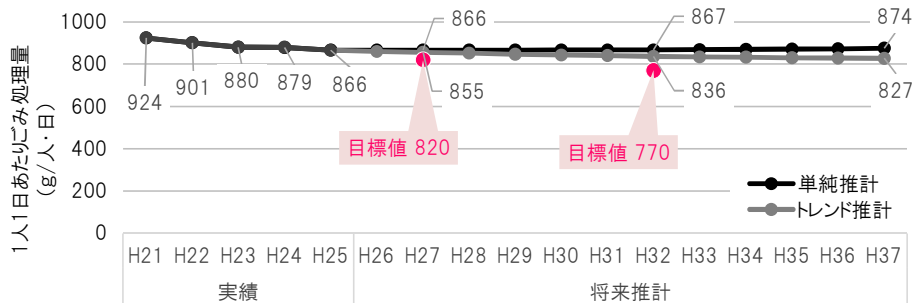
④ ごみ処理量

H37には453～479千t/年(対H25で93.0%～98.4%)になると推計され、H27・H32の目標値はいずれも達成できないと見込まれる。



⑤ 1人1日あたりごみ処理量

H37には827～874g/人・日(対H25で95.5%～101%)になると推計され、H27・H32の目標値はいずれも達成できないと見込まれる。



⑥ 最終処分量

H37には79～85千t/年(対H25で90.8%～97.7%)になると推計され、H27・H32の目標値はいずれも達成できないと見込まれる。

